

館山神社

琴平神社



北下台に鎮座する琴平神社

浅間神社



城山山頂に鎮座する浅間神社

由緒 祭神

素戔鳴尊（すさののみこと）



城山下に鎮座する館山神社



館山神社拝殿の龍彫刻（後藤次郎・橋治光作）

鎮座地：千葉県館山市館山二五二

自慢の祭

例年七月に入ると、たてやまんまちに向けて氏子総代を中心に行なわせ、青年会、子供会により地区をあげてのさまざまな祭礼準備が始まります。子供会では花作りから花売りを行い、神輿歌の練習も行なわれ当日に備えます。

「咲いたえー 桜に 何故駒つなぐ」

駒がいさめばえー 花が散るー」

上須賀地区には、子供達にも引き継がれています。古来から祭礼の際に唄われている「神輿の唄」があります。百曲を超える曲目が用意されており、祭礼時にはだれかれともなく唄われながら神輿が担がれます。近年では「正調神輿の唄」を引き継ぐ者が少なくなっています。後世に正しく述べるため平成五年に収録保存されました。

上須賀神輿渡御は、遠い昔の年に一度の鎮守様への巡幸であつた時代から、変わり移る幾多の変



鎮守社である館山神社拝殿前で上須賀神輿



大神輿に負けない風格の小神輿の館山神社入祭



昭和11年大改装の時の祭礼写真

お年寄りまでの方々の親睦や連帯の絆を深める場として統率のとれた神輿渡御が行われています。

夜の渡御では神輿本体がライトアップされ、息のあつたもみ差しによって大きくまた小さく揺れる姿は、上須賀ならではの美しい自慢の祭です。

現在は館山十三地区八社として、神輿七基、曳舟二基、山車四基がそれぞれの地区から出祭しています。愛称「たてやまんまち」として、城下の人々によつて伝え続けられてきた

「心のまつり」です。

上須賀地区には、館山神社の他に琴平神社、上須賀稻荷神社、浅間神社の四社があります。琴平神社では四月十日に例祭が執り行われ、浅間神社では、例年楠見区と合同で六月三十日夜より七月一日午前零時に向けて潮堀離神事などが執り行われています。

上須賀地区には、館山神社の他に琴平神社、上須賀稻荷神社、浅間神社の四社があります。琴平神社では四月十日に例祭が執り行われ、浅間神社では、例年楠見区と合同で六月三十日夜より七月一日午前零時に向けて潮堀離神事などが執り行われています。



このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心いて、さまざまな文献史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。

祭りの起源 大正三年、旧館山町（現在の青柳、上真倉、新井、下町、仲町、上町、楠見、上須賀地区）と、旧豊津村（現在の沼、柏崎、宮城、笠名、大賀地区）が合併し館山町になつたのをきっかけに、大正七年より毎年十三地区十一社が八月一日・二日の祭礼を合同で執り行うようになります。その後、大正十二年の関東大震災により、諏訪神社（下社）、諏訪神社（上社）、嚴島神社、八坂神社の四社が倒壊したため、協議により各社の合祀を決め、昭和七年に館山神社として創建されました。

現在は館山十三地区八社として、神輿七基、曳舟二基、山車四基がそれぞれの地区から出祭しています。愛称「たてやまんまち」として、城下の人々によつて伝え続けられてきた

「心のまつり」です。

8/12

館山のまつり